

## 2019年度 アナリスト・機関投資家向け説明会（質疑応答メモ）

### 1. 連結業績・需要環境について

- Q) 足元の事業環境、需要動向について、地域別、向け先別で解説してほしい。タイ（UATH）に関しては、足元と、2020年1～3月の生産販売数量に関しての解説もお願いしたい。
- A) 2020年1-3月の生産・販売活動は新型コロナウイルスの影響を受けていない。影響が本格的に発現してくるのは2020年5月以降。UATH/UWHともに2020年1～3月は社内計画通り推移。
- Q) 2019年度、コストダウン、販売関係差が上回った点についてもう少し具体的に教えてください。新型コロナウイルスの影響は2019年度には、あまりなかったということでしょうか。
- A) コストダウン効果は3Qで年間公表値を下方した時点から、トップダウンでもう一段のコスト削減・経費削減に取り組んだ結果としてプラス3億円ほど上振れた。2019年度は新型コロナウイルスの事業に与える影響はほとんどなかった。
- Q) 缶材の需要は日本および北米で堅調のようだが、アジアでは新型コロナウイルスの影響が出ている印象。この市場環境の相違点について詳しく解説してほしい。新型コロナウイルスの影響などによる需要減に備えた緊急的なコスト削減の対応についてどのような可能性が考えられるか？
- A) 市場環境そのものは地域差が出てきているが、日本・北米の飲料缶関係については大きな需要の変動はない。日米ともに生活必需品である缶材は家飲み需要などもあり、大きな需要減は起こっていない。東南アジアはロックダウン・酒類の販売が制限された影響もあり、飲料缶の需要が一部落ちている。自動車関連は日・米・アジアともに経済活動停止・自粛の影響が需要面で出てきている。
- Q) 自動車向け需要減少の影響について、品種別での見通し、利益インパクトの規模などは、どう見ているか？ 板材、押出材、鋳鍛（コンプレッサホイール等）、UWHなどそれぞれの状況を可能な範囲で教えていただきたい。また、自動車向けが全社利益のうちどれくらいの割合を占めているかイメージを教えてください。
- A) パネル材、バンパー・構造材等の部品関連、熱交換器材ともに、自動車メーカーの減産の状況下では需要減少の影響が出始めている。UWHは2020年3月末より一時操業を停止したが、現在は操業している。鋳鍛は自動車分野以外の航空宇宙・鉄道分野も手掛けており、影響は限定的だが、コンプレッサホイール分野は影響が出てきている。押出は熱交換器材が影響を受けている。
- Q) 半導体・液晶製造装置向け厚板について、足元の引き合い状況と、現時点での今後の見通しを

詳しく教えてほしい。

- A) 半導体・液晶製造装置向け厚板は、2019 年度 4Q に少し戻り基調だったこともあり、2020 年度も期待をしていたが、2020 年 5 月頃から新型コロナウイルスの影響で需要は停滞している。今後は、半導体生産が中国から他のエリアへ分散される可能性もあり、中長期的には販売量が拡大していくと思う。
- Q) 日本では輸入板が増加しているが、影響はないか？
- A) 印刷板、箔材分野などでは輸入材が増えているが、当社は国内の販売数量が減少しても収益は確保できており、より付加価値の高い品種へ品種構成をシフトすることで対応している。
- Q) 2020 年度の業績予想は開示されていないが、2020 年度の増減益要因に関して、どのようなアイテムがあるか、教えてほしい。原油価格が下がっているが、いつ頃から UACJ の業績に寄与してくるか？
- A) ネガティブ要因：地金の価格下落による棚卸資産の悪化リスク。  
ポジティブ要因：エネルギー価格下落に伴う当社エネルギーコストの好転。  
(10 億強の増益要因)

## 2. 主要海外子会社の状況について

- Q) 海外子会社群の業績の実績、各拠点の現状を教えてください。また、米国では自動車や航空機産業が不振で、不足していた板の母材はだぶついているか？
- A) 業績は、以下の通り。  
UATH: 2019 年度 売上高 691 億円、経常利益 ▲45 億円  
TAA: 2019 年度 売上高 1,306 億円、経常利益 29 億円  
国内の缶材は生産・販売はともに予定通り。自動車関係は少し減る。  
UATH はアジア各国での酒類販売制限影響、経済活動の一時的な停止影響により、足元の出荷に遅延等が出てきているが、年間での製罐メーカーおよび、ボトラーからの注文量に変更はない。  
TAA は継続稼働ができており、飲料缶は問題ないが、自動車材の提供は、自動車メーカーの工場操業停止の影響を受けている。  
金属加工・その他は一時的に操業を停止していたが、現在は稼働しており、グローバルでは現在ほぼ全拠点が稼働している。
- Q) TAA の缶材の値上げの 1~3 月期の進捗について詳しく教えてください。
- A) TAA では旺盛な北米の缶材需要により、2019 年度期中から値上げと長期契約ができてきている。2020 年度も同様に値上げは見込める。

### 3.構造改革について（設備投資について）

Q) 設備投資はどれぐらいに絞り込めるか？

A) 2019 年度の設備投資が 489 億円、日・米・タイで投資をした。ただし、ここ数年かけて実施した大型設備投資のピークが 2019 年度であり、2020 年度の設備投資の見通しは 2019 年度の約半分の額（予算）を予定している。今後、新型コロナウイルスの影響によるキャッシュ・フローの悪化が想定されることから、一部の投資の延期・経費の削減を実施することで財務規律は維持していきたい。

また、ポストコロナ対応として追加投資を社内で検討しているが、それも資産の効率化等で財務規律が守れる範囲内で実施していく。

Q) 構造改革策の中で、フリー・キャッシュ・フローの黒字化を掲げている。大型戦略投資の一巡もあり、今後 3 年間は設備投資総額 670 億円と置かれているが、2020 年 3 月期の実績や、足元の事業環境を受けて、設備投資規模について、さらに厳選するなど見方に変更はあるか。

また、構造改革効果も含めて、固定費の今後のトレンドをどうみるか、解説してほしい。大型投資を続けてきたことで、減価償却費は増加するが、今後、損益分岐点を下げる取り組みはあるか。

A) 構造改革で掲げた設備投資総額 670 億円は守らなければならない。ただし、これから新型コロナウイルスの影響により、損益・キャッシュ・フローともに一時的には悪化が懸念され、それに対応するために設備投資の延期や削減は必要になってくると考えている。また、コロナ後を見据えた、新たな投資も必要となるが、資産の効率化や棚卸回転日数の改善等の追加施策を実施しながら、公表した 670 億円の範囲内で実施していく。

固定費の削減については、構造改革の中でも「損益分岐点の引き下げ」というテーマを掲げて、2019 年度の下期より各事業で取り組みを開始しており、進捗管理については構造改革本部がまとめ役となっている。2020 年度の減価償却費が増えることは、計画に織り込み済みであり、事業部単位でもう一段コスト管理を徹底していく。また、人員の効率化も同時に進めており、IT の有効活用による生産活動の高度化や、間接部門の効率化も実施していく。足元では BPR の活動を実施し、必要なアクションの洗い出しを進めると同時に、大きな社会の環境変化に対応できる仕組みづくりも合わせて実施している。

以上

◆将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があります確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

◆著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会 UACJ に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。